

030

# 中性子の磁気能率

湯川秀樹

中性子の有する基本的な性質としては、電荷を持たぬこと、質量が陽子より少しく大きいこと ( $1.0091:1.0076$ )、スピンの  $\frac{1}{2}$  で Fermi の統計に従ふこと、等である。陽子其他の原子核との相互作用が  $10^{-13}$  cm<sup>程</sup> の近距離に於て極めて激しく大きくなること等である。この他に ~~核の~~ 磁気能率を持つて居るか否かも  $\rightarrow$  の重要問題である。既に陽子に対して、磁気能率とスピンの比が電子の場合と異なることが知られて居るのであるから、この問題は素粒子論に重要な意味を持つ。有する様に見える。最近これを直接に従来から、陽子、重陽子等の磁気能率から、間接的に之を決定して居ることを行われてゐたが、最近これを直接に

原子核の  
磁気能率  
統計的性質

岩波書店 25x16

決定する方法が案出され、後方で実験が行われてゐるので、  
その理論と~~本稿~~実験とを論字に併紹介したいと思ふ。

1. 間接的方法。

